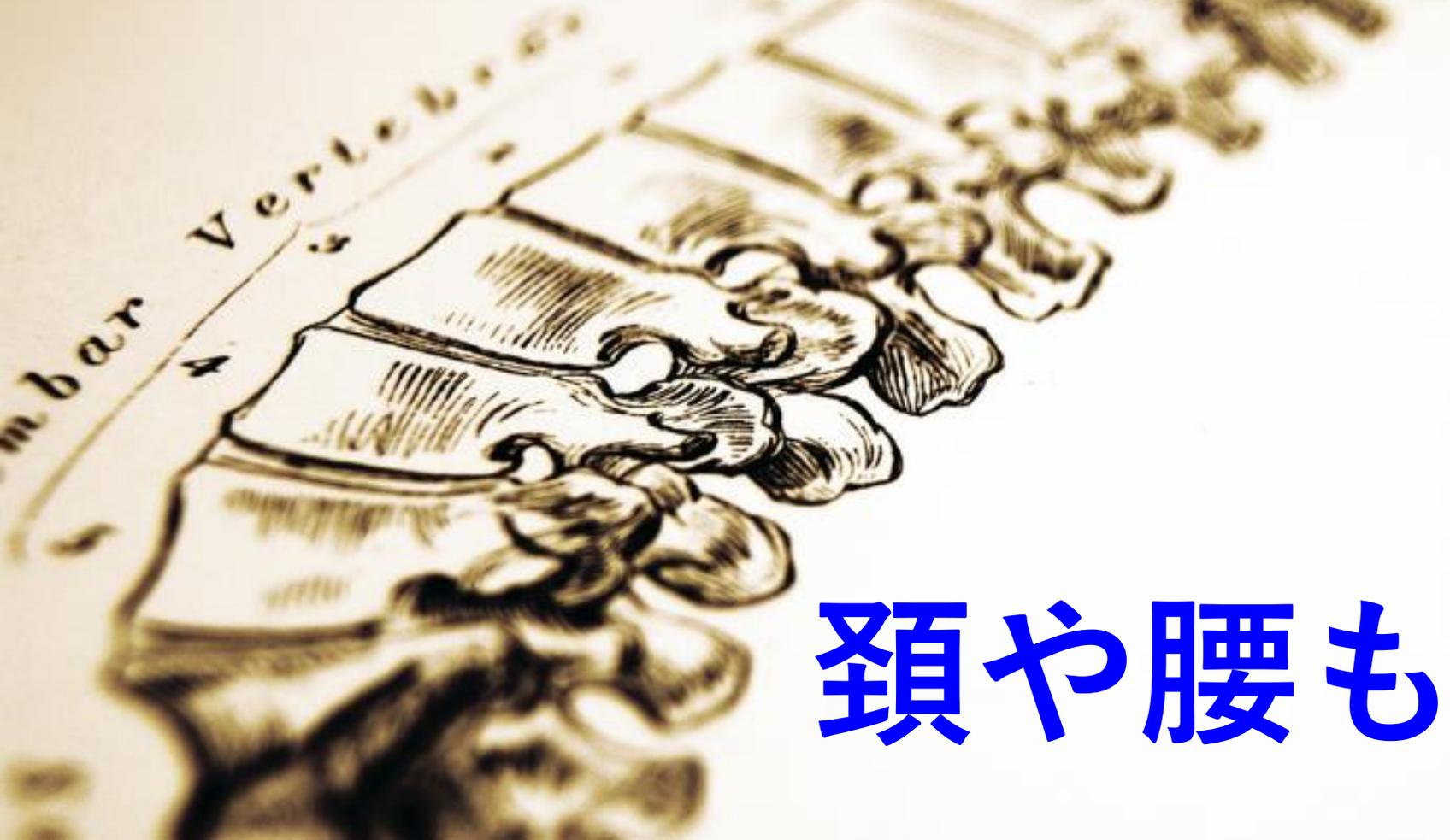
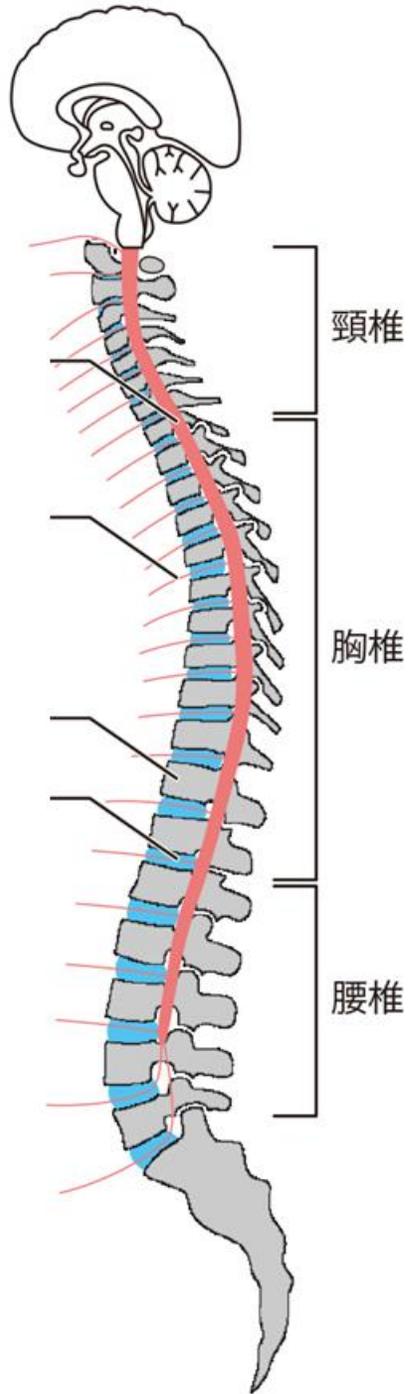


あなたの背骨を大切に



頸や腰も含みます

脊椎と神経障害



脊椎のすぐ後ろが神経の束



脊椎が傷んで神経も障害



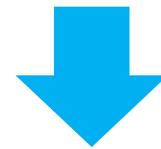
脊髄症、脊柱管狭窄症

神経根症

椎間板ヘルニア

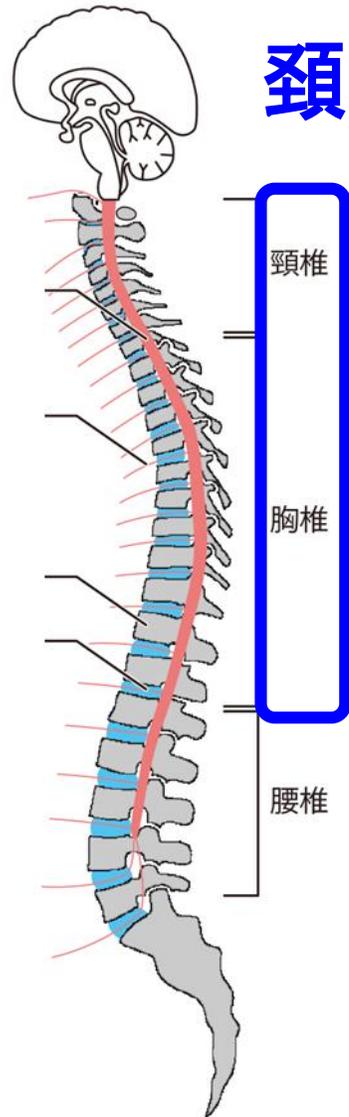
後縦靭帯骨化症

長年の積み重ねで
脊椎が局所的に傷んできて
神経の通り道が狭くなる

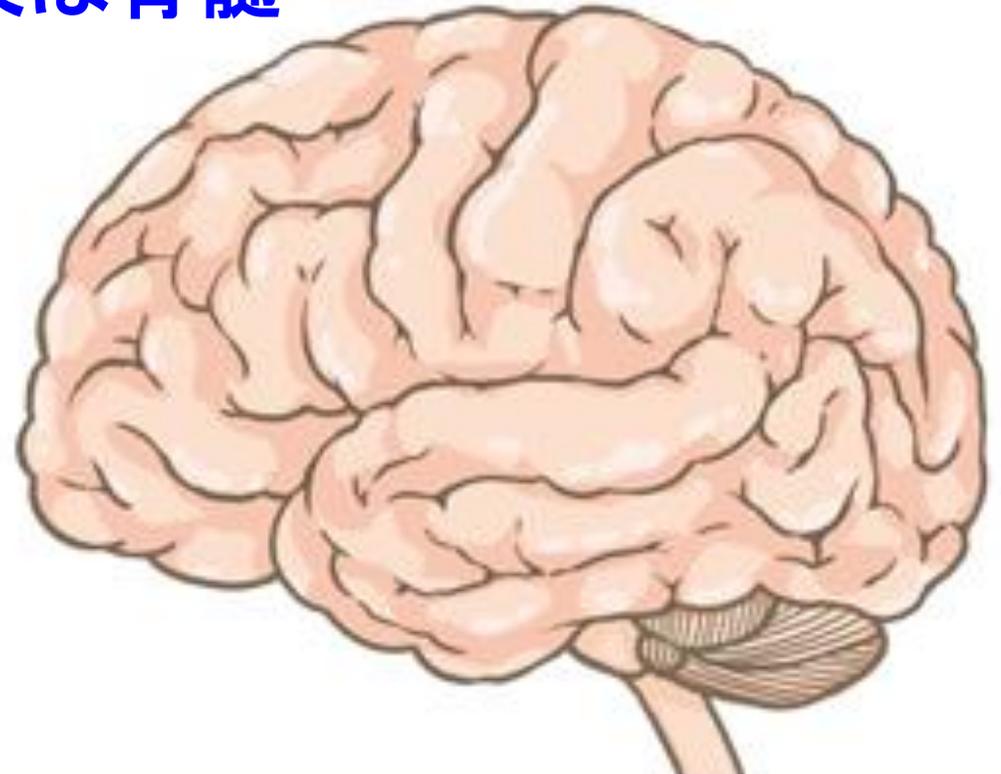


姿勢や日常生活動作など
日々の背骨ケアが大切

脊髄は脳と同じく回復しにくい

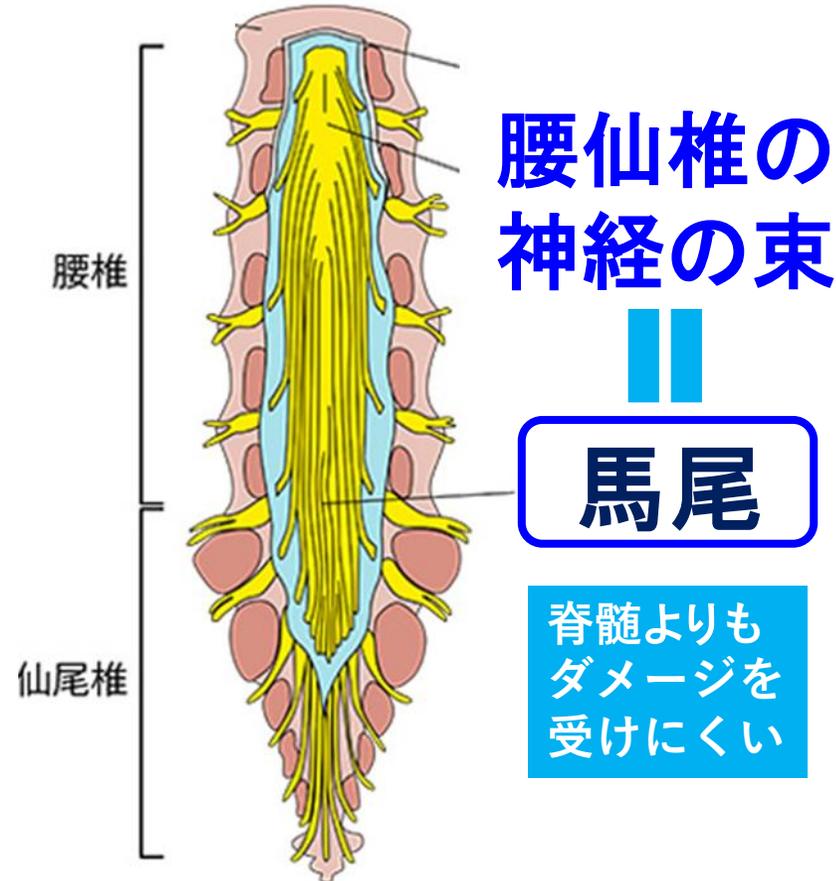
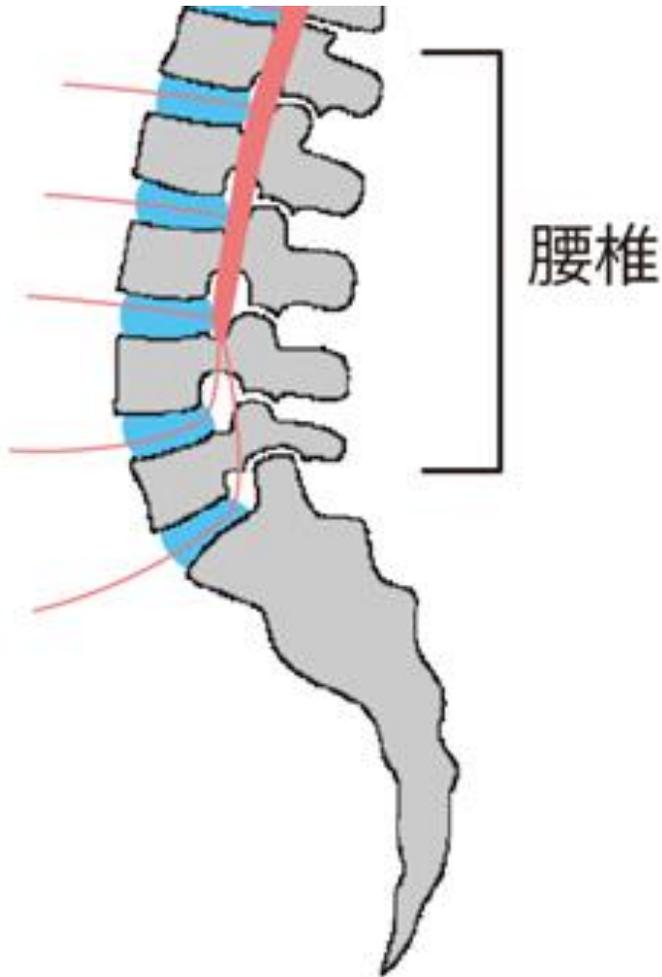


頸椎、胸椎の神経の束は脊髄



軽症のうちにも手術も考慮

腰椎、仙椎レベルでの障害



- ・ 著明な下肢麻痺なし
- ・ 排尿や排便の障害なし



下肢の痛み、しびれの治療



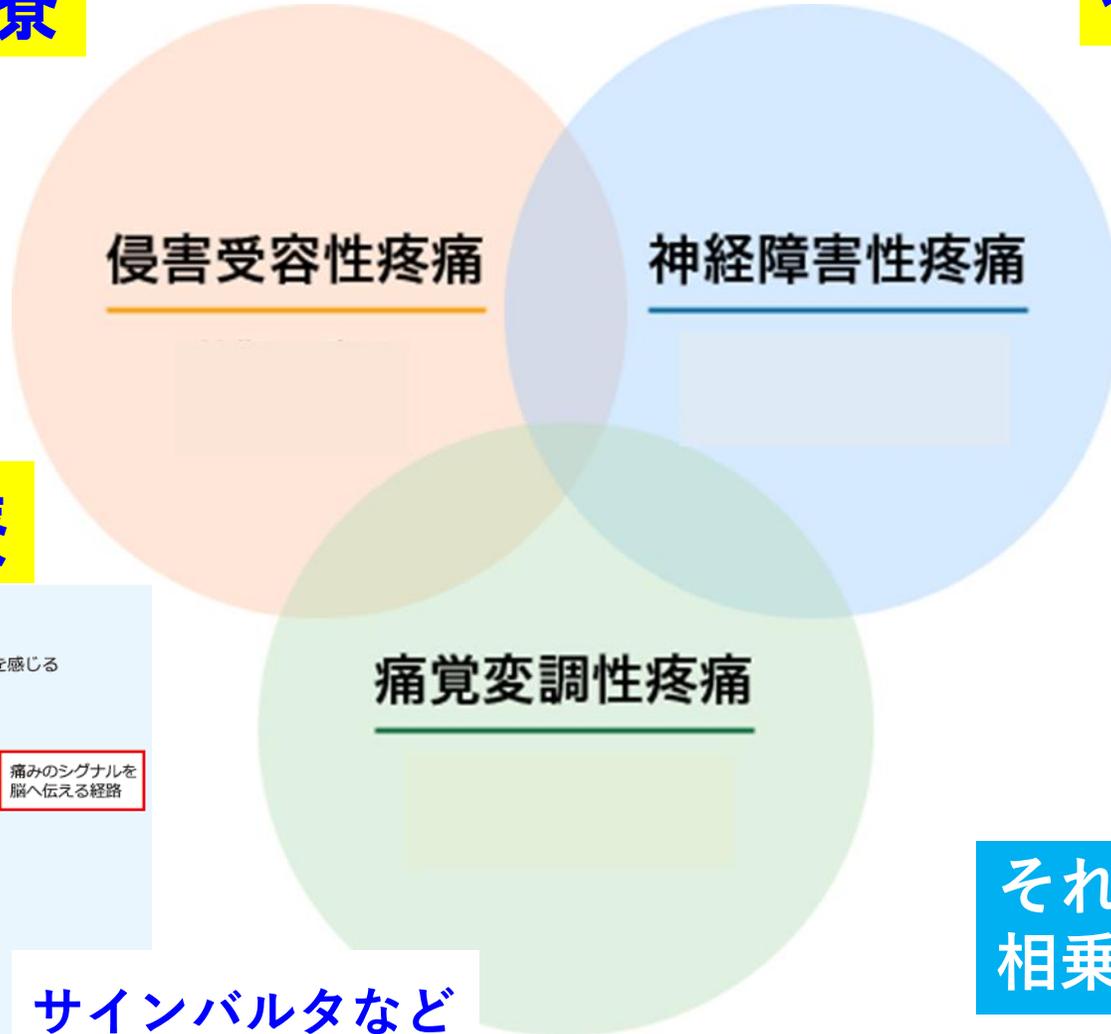
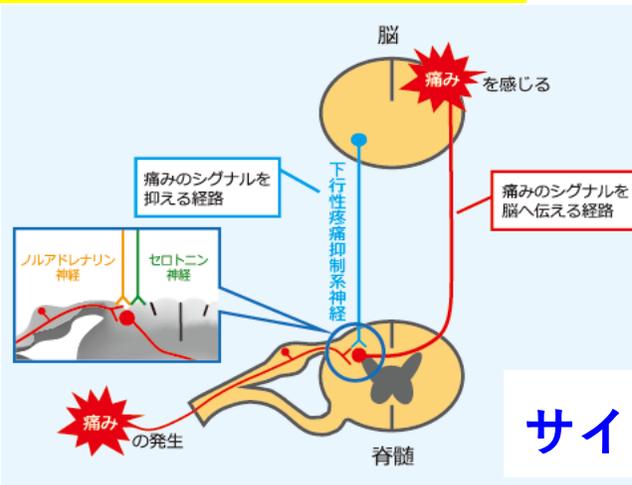
まずは内服治療

痛みの種類を考えた内服治療

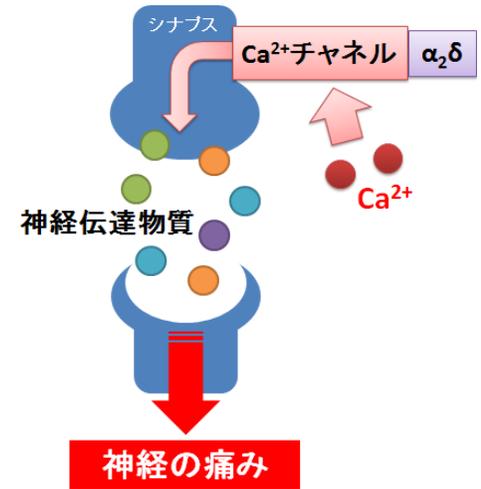
炎症を抑える治療

ロキソニン
セレコックスなど
一般的な痛み止め

痛覚過敏の治療



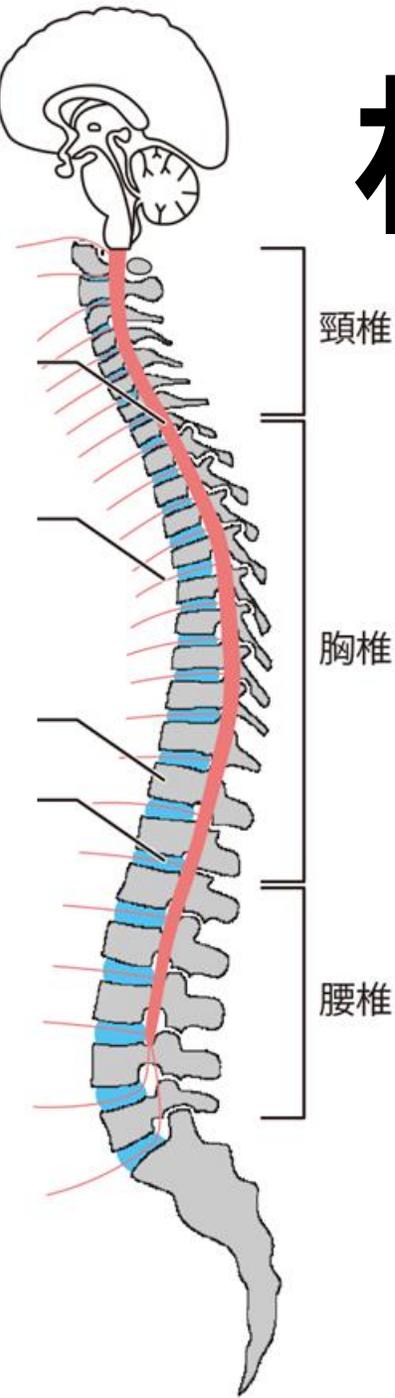
神経障害の治療



リリカ
タリージェなど

それぞれの組み合わせで
相乗効果も期待できる

椎体骨折も神経障害に関係

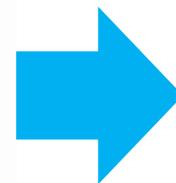
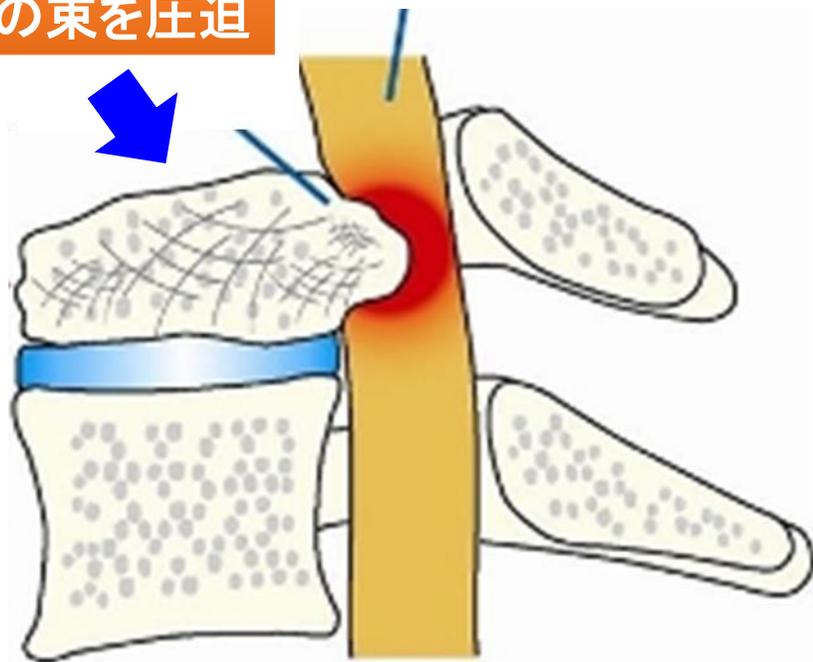


頸椎

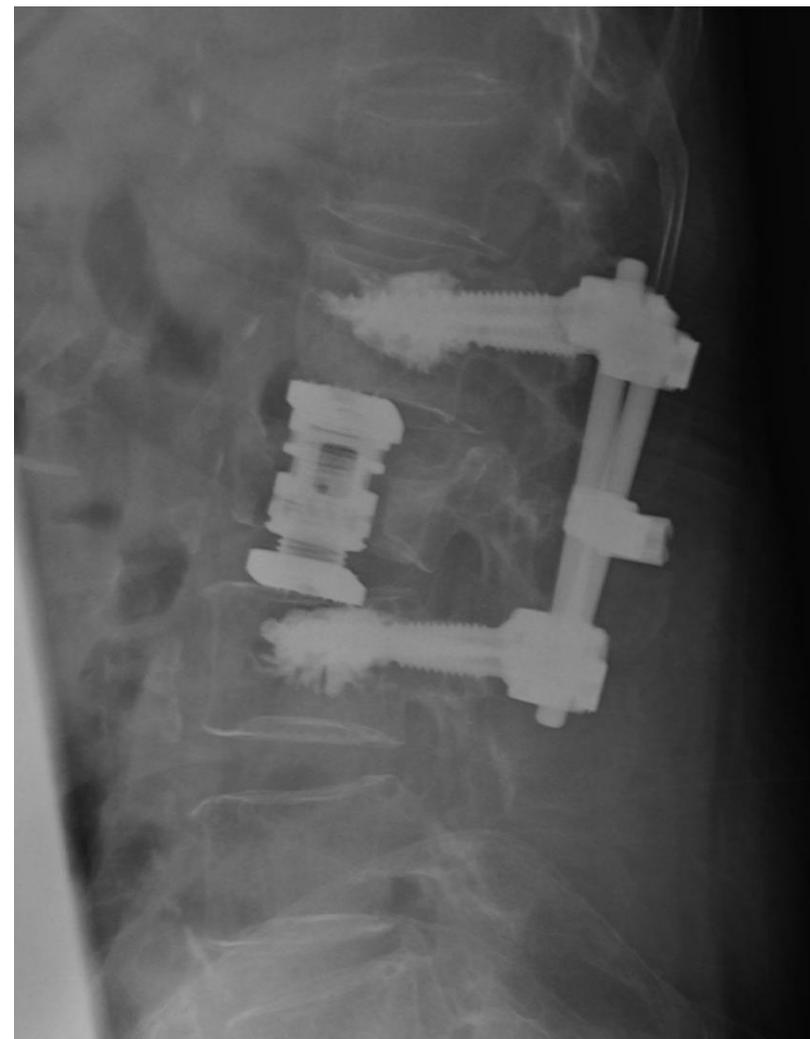
骨折した椎体が
神経の束を圧迫

胸椎

腰椎



進行してしまった場合は手術



まずは骨粗鬆症の早期診断

骨折しないための
予防が大切です



検診による骨密度測定

骨折してしまった場合

立った姿勢からの転倒か、それ以下の外力での椎体骨折や大腿骨近位部骨折

➡ それだけで骨粗鬆症の診断となり治療が必要

- これ以上骨折しないために
- これ以上進行させないために
- 手術にならないために



骨折は1カ所でストップ！！